

2025 年 6 月 13 日 第 3515 回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 高橋 会長

<斉 唱> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> *青少年交換留学生 Lualy Rehen HOFER TURCATO さん

*大和証券(株)横須賀支店 支店長 高橋 岐 武 様

<会 長 報 告> *ガバナー事務所より

・2025-26年度地区ロータリー財団セミナー及び補助金管理セミナーのご案内
7月12日(土) 受付開始 12:30 R財団セミナー 13:00~15:10
補助金セミナー 15:30~16:30

場所：アイクロス湘南6F「会議室」

*次年度第1グループ合同例会のご案内

7月24日(木) 11:30~12:30 食事

12:30 点鐘・開会 13:30 閉会・点鐘

場所：横須賀商工会議所3F 301研修室

卓話：桐ヶ谷主税次年度ガバナー補佐

ホストクラブ：三浦ロータリークラブ

<青少年交換留学生による発表>

*一年間を振り返ってのスピーチ Lualy Rehen HOFER TURCATO さん

<委員長報告> *職業奉仕委員会 椿委員長より職場見学会報告

<幹事報告> *例会終了後 新会員のための情報セミナー開催についての打ち合わせ(例会場)

<出席報告> *出席委員会 角井副委員長から6月13日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
112名	100名	67名(4名)	33名	3名	69.31%

メイクアップ：飯塚、松川 両会員 三浦RC出席 新倉会員 横須賀西RC出席

<ニコニコ報告>

・三 役 青少年交換留学生 ルアリーさん、例会出席が最後となりますね。残りの日本生活を存分に楽しんでください。ルアリーの輝く未来を応援しています。

・木 村、八 巻、植 田、梶 木、勝 見、角 井、杉 浦、荻山、小山 嶋、
北 村、田 邊、吉田 〴、鈴木 〵、加賀本、柴 田、前 田、上 林 各会員

青少年交換留学生 Lualy Rehen HOFER TURCATO さん帰国が近づいてきましたね。

日本は楽しめましたか？スピーチもありがとうございました。

・柴 田 会員 誕生月祝いとして

・勝 見、加賀本、荻 山、木 村、柴 田、三 井 各会員 入会月祝いとして

・三 役 浅葉会員、本日の会員卓話ありがとうございます。興味深いテーマで楽しみにしています

・大 石、竹 株、椿、梁 井、権 田、加藤 〴、田 中、植 田、
井 上、山 下、八 木、鈴木 〵、谷、鈴木 〴、長 尾、小林 〵、

小佐野、藤 村、佐久間、真 野、三 堀、物 井、上 林、野 坂、

小林 〴、加賀本、小 澤、前 田、吉田 〴、三 井、岡田 〴、杵 渕 各会員

本日は浅葉会員による卓話「発達障がい児不登校の進路を考える」です。今年度のテーマの一つである教育についてどんなお話が聞けるのか楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします。

・浅 葉 会員 本日、発達障がい児不登校生の進路を考える会のロータリー編の卓話をさせていただきます。話を聞いて是非、今後、私の応援をして下さい。

- ・石 田、高 橋、比 護、齋藤(株)、小山(株) 各会員 梅雨入りが発表されましたね。急な大雨や雷雨も予想されますが、雨に濡れるあじさいも美しい季節です。横須賀美術館では海と空を背景に色とりどりのあじさいが訪れる人の心を癒しているそうです。
- ・小 澤 会員 小沢一彦のお別れ会、皆様のお力添えにより滞りなく心温まる会を執り行うことができました。心より感謝申し上げます。

＜卓 話＞ 「発達障がい児、不登校生の進路を考える」

浅 葉 孝 己 会 員

「発達障害のある生徒にも高校卒業資格を」をスローガンにして日夜戦い続けている私の会社、(株)日本教育指導協会と私が現在で取り組んでいること、今後の目標をお話しし、多くの方にこの問題に取り組んでいる私を応援していただこうとの思いで今回卓話をさせていただきたいと思います。私は、放課後等デイ事業を始めてから12年間毎週土曜日、県内のどこかでこのテーマで講演などを行っています。是非聞いてください。



まず、この問題の概略をお話しいたします。現在日本のどの地域でも同じ問題がおこっております。人口減少、少子化が進む中で、小中学生の数も減少し続けていますが、発達障害

を持つ子は年々増加しています。そして受入する小学校、中学校の支援級の生徒も年々増加しています。当社は、私が慶應義塾大学在学中から始め、50年間培ってきた進学塾・予備校や家庭教師センターの経験を活かし、こども家庭庁認可の発達障害児のための学童、放課後等デイサービスを神奈川県内に35教室運営しております。中でも学習療育を中心として子供たちを応援しています。今の実体をお伝えします。

こどもは、1、2、3歳で地元の保育所での検診を受けます。その時、簡単な単語が言えるか、目線が合うかどうかなどの反応を見て、他のこどもと様子が違う場合、発達障害の疑いがあるので地元の療育センターに相談に行くように言われます。そこでは、WISCなどの検査をして、ある程度の診断をします。近年では、小学校に上がる前に、この子は発達障害があるので、新小学1年生から通常級ではなく、併設の特別クラスである支援級から上がりましょう、といわれる児童が多くなっています。発達障害としては、ADHD、大人になっても宴会などで場違いなことばかり言う人がいますね、アスペルガー（高機能自閉症）、得意なことだけは、暗記できるがあとは全くできない、たとえば、ポケモンの種類は全て言えるが、後はできない、あと、自閉症、多動症なども広汎型発達障害とくくられます。小1から支援級を選択する子は、発達障害以外に知的障害の子が多いようです。小1の国語は、ひらがな・カタカナ・漢数字の一、二、山、川、大、中、小など約20字の漢字です。算数は、一桁の足し算、引き算です。それができないと親は支援級にあげます。普通はもう少し年長になり支援級に移るようになります。小3、小4になると、算数の勉強が難しくなります。整数以外の分数や小数が出てきます。四則の中では割り算が難しくなります。また、単位も出てきます。重さ、長さから面積、体積などの計算です。途中から支援級にくる子は、多くが小3、4年です。私立中学校を受験する準備のため、この時期から日能研やサピックスに通う人も多くなります。

40人のクラスで勉強に遅れていて、発達障害を持つ生徒4～5人います。それとは別に不登校や不登校気味の生徒が4～5人います。重なる子もいます。学校が好きな子で勉強に遅れている子は支援級に行きます。学校やいじめの問題で不信感から学校にいかない子は不登校生です。不登校生は通常級のまま放置されます。

教育はどんどん先に進めてほしいというのが親の希望です。横浜市の110の中学校には全てに支援級があります。小学校は全てではないですが、約3分の2の学校に設置されています。私には地元の横浜駅の近くの青木小学校に通う2人の小学生がいます。1学年120人の4クラスの学校です。今、横浜駅に隣接した地域にマンションが續々と作られてきており、狭いグラウンドをつぶして校舎を増設することが議論されています。その資料によると、5人だった個別支援級の児童の数が15年間で8倍の40人になっています。この例が示すように横浜や川崎では個別支援級の児童数が激増しています。

横須賀市の中学校はほとんど1学年3クラスですが、鎌倉や藤沢の海側は5クラスです。藤沢の山側は8クラスです。人口、人口密度が一番多いという横浜市の港北区、都築区、川崎市の中原区、宮前区、高津区はほとんどの中学が10クラスです。宮前平中学には通常級のクラスが10クラス、1学年に不登校のクラスが2クラスあると言われています。これが今の神奈川県の実況です。

横須賀市の中学生は、年々生徒は減りますが、支援級の生徒は逆に増えています。支援級は、無学年で、10人から15人の生徒に2、3人の先生がつきます。生徒本人ができることをやりますので、低学年の漢字や英語、数学の計算しかやりません。勉強の面では、普通級の生徒よりどんどん遅れています。取返できません。小学校と中学校を支援級で過ごして、いよいよ中学3年生を迎えると当然高校進学の問題が起きます。そこには思いがけない問題がおきてきています。

中学校の支援級には問題点があります。

① 5段階の内申点がない。

神奈川県の公立高校受験は神奈川方式と呼ばれています。内申点は中二で調査は9教科×5段階＝45点満点。中三はそれを2倍して90点満点、合計135点満点のうち何点取ったかと、2月の高校入試の英数国理社の5教科×100点＝500点中何点取ったかで決まります。その半分を占める内申点がありません。

② 支援級では、英語、数学、国語などの主要科目はほとんど教われない。

中学校の支援級の先生は、必ずしも主要科目の先生ではなく、芸術科目の先生もおります。つまり音楽、体育、美術、技術家庭科の先生も混じっており、原則教職免許のない教科は教えられません。

③ これらの条件を考慮して、多くの中学校の進路指導や支援級の先生方が、特別支援学校（養護学校）の高等部への進学を進めます。三浦半島では、武山養護と岩戸養護があり、その高等部への進学を進めます。中学校からの人数が多すぎて一部高等部はパンクしています。人口の多い太平洋ベルト地帯ではすべて高等部においてパンクしています。しかし、養護学校は高校ではありませんので、卒業しても民間では高卒扱いにはしません。

本校には身体障害の生徒も多く通学しており、発達障害の生徒は分教室に通います。横須賀ですと津久井浜高校に別棟を借りて1学年15人入学できますが、籍は養護学校です。ここでは、あまり勉強はやりません。また、療育手帳が必要なので、一番困る生徒は、手帳がなくて、支援級にいる場合、特別支援学校にも高校にも進学できませんでした。

特別支援学校の高等部を出ても、民間では中卒の障害のある生徒とみなすため、卒業後の就職が難しいのが現状です。就職できても清掃か軽作業の会社となります。高卒の資格があれば、専門学校に行き、保育士、美容師、調理師などを自分の職業として選ぶことができますが、それもできません。3年前、横浜のみどり養護の分教室の新栄高校（第三京浜 港北インターそば）に分教室15名の行先を尋ねました。5人が就職できましたが、ほとんど特例子会社で清掃か軽作業でした。従業員100名以上を持つ民間企業では、従業員の2.5%を障害者雇用としなくてはなりません。年々厳しくなり、2年後、0.2%ずつその比率は上がっていきます。1,000人の従業員の会社ですと25人雇用しなくてははいけません。雇用しない場合は、1人につき、月5万円の罰金です。年間1人当たり60万円となり、今のところ罰金で済みます会社が多いです。国県市などの行政は、2.3%が義務付けられていますが、多くは罰金を払う先がないため、その数字が守られていません。5人は福祉事業の自立支援や就労移行支援の学校にいきました。残り5人は、行先がなく作業所になりました。作業所は就労継続支援B型のことです。B型があればA型もあります。A型は、最低賃金を保障しますが、なかなか入れません。B型は全国平均月17,000円で働きます。生活保護手当を加え、17,000円の賃金が収入になります。親もこどもが18歳を迎えるころには50前後になっていて、こどもには、グループホームで生活するようにさせる方もいます。グループホームは、高齢者か障害者が一緒に生活するシェアハウスです。聞こえは楽しそうですか、時間になると外出はできません。日本は夫婦が離婚

すると、ほとんどの場合、こどもは母親の方に行きます。生活力のない母子家庭で障害者を抱えた母親が、こどもをグループホームに預ける例は多くなっています。

そこで何としても高校に進学させることが大切になります。7年前から神奈川県ではインクルーシブ校を設置しています。“障害児にも公立高校に進学するチャンス”の言葉で文科省と厚生省が立ち上げた政策です。県内14校で21名の知的障害児を受入れます。三浦半島では、津久井浜高校がインクルーシブ校です。どの高校も1学年7クラスです。副担任の先生はつきますが、原則普通の高校生と一緒に授業を受けます。津久井浜高校は3と4の内申点を持つ生徒たちの中に、3名だけ英数国が全くできない生徒が入ります。現在、約半数が定員割れです。志望条件は、学校説明会に参加する、学校行事を見に来る、模擬授業に参加するなどです。

しかし、授業は、分ろうと分かるまいと、他の生徒と一緒にきく、この強引ともいえるインクルーシブを実践しているのは、関東や近隣の県でやっている県は無く、2016年に起こった津久井のやまゆり園での事故の責任を神奈川県だけが意識して手を上げたと言われています。小学校や中学校で、無理やり支援級に分けておいて高校で一緒にするのは無理があります。高校無償化により、一段と公立高校離れが進むと言われています。県内の公立高校の下位校や工業高校など、すでに定員割れが起こっており、受験すれば公立高校に入れる時代がきました。インクルーシブ校でプライドを傷つけられるぐらいなら同じレベルの生徒が集まっている公立下位校や工業高校に行った方が、楽な気がします。

公立高校には、入試が面接だけのクリエイティブ高校が5校あります。田奈、釜利谷、大和東、大井高校に横須賀南高校（元大楠高校）です。ここは、中学からの学び直しをしてくれます。また、昼間の定時制の横浜明朋高校（元港南台）も3年で卒業できます。いずみ中央駅から徒歩20分、元の湘南高校通信制と横浜平沼高校の通信制が合併してできた通信制高校である横浜修悠館高校には私の地元の武山教育隊にある高等工科学校の生徒も通っています。1,200名入れますが、通信制のルールが厳しいため、2割しか卒業できません。公立高校の先生たちが移ってきただけなのでルールを曲げてくれないためです。

今年の1月18日の朝日新聞に、神奈川県では11人に1人の割合で通信制高校を選択しているという衝撃的な記事がでました。高校には、全日制、定時制、通信制の3種類があります。卒業するには、74単位以上の取得、3年間以上の在籍が必要です。違いは、全日制、定時制は出席が必要ですが、通信制は自由です。そのため、不登校気味の生徒や支援級の生徒が通信制高校を選びます。通信制高校の単位は、①レポートの作成②スクーリングの参加③年間二回のテストです。不登校生や発達障害生徒には適しています。卒業しやすいのが私立の広域通信制高校です。既存の通信制の高校に加え、N高、飛鳥未来、ルネサンス高校を含め、横浜駅周辺には、20近い通信制高校が集まっています。しかし、大きな問題があります。不登校や発達障害で苦しむ生徒が東京都の次に多い神奈川県には、広域通信制高校の本校は特区の鹿島学園山北しかありません。御殿場線の山北駅から上に1時間入ったところにあり、遠いため人気は今一つです。広域とは他県からも生徒を集めることができる高校で15年前からインターネットの普及に合わせ、全国から生徒を集めることができる高校ばかりになりました。スクーリングは本校でしか認められていません。大手の通信制高校は、全日通学型で全日制のように朝から夕方まで通学させ、年間100万円以上の授業料となっています。特に有名なクラーク、星槎、日々輝高校は、年間150万円から200万円になってきました。いくら通学できなくても単位をくれるとはいえ異常に高い金額です。

もっと安い授業料で、きちんと通学できる通信制高校はできないのかなと考えました。25年前から連携しているのが、茨城県の学校法人翔洋学園高校です。高校の授業料年間35万円のうち、就学支援金を免除し、20万円で通学できるようにして、発達障害児は学習支援コースに参加いただき、放課後等デイに通うつもりで、サポート校の授業料を無償化にしました。新高校1年生の入学希望者も年々増え、今年は約50名の入学者をいただきました。県内、横浜西口、藤沢、相模大野校で学年別のクラス指導、その他、JR相模原、平塚、川崎、小田原、横須賀中央で集団個別指導をしています。35教室でワンデイコースも受け付けています。東京蒲田にもこの春進出しました。次は、上野、川口、南浦和に入っていきます。1学年100名以上になりましたら、いよいよは自分自身で広域通信制高校をどこかに廃校を利用して設置したいと思います。また、今春より高校卒業生を対象にした自立訓練の大成カナワビカレッジを相模大野モアーズ校、横浜天王町校と開校しました。こちらは、特別支援学校卒の方も利用できます。教養講座、コミュニケーション力や各種検定、パソコン検定、ビジネス検定にも挑戦します。将来の構想は、神奈川県を中心に1

都3県に伸ばし、放課後等デイの教室を100、自立訓練、就労移行支援の教室を20、広域通信制高校を持つことです。是非、皆様にご支援いただき、実現に邁進していきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 高橋 会長

週報担当 竹 株 枝 里

